

ひとたちの文化

★エッセイ 85

『『라이어』の音色に魅せられて』

根本 裕美★

★人々が集う場所を目指して

天球劇場解説員奮闘記★

★My仕事 104

香・高級線香専門店

ぶんじゅ
文壽★

日々を詠む 76 〈選・評 佐々木とほる〉

ふるさと探訪パートⅡ-57

能楽は日本人のこころ(終) 後田 洋子



「雪の朝」

撮影場所：かみね動物園入口
(日立市宮田町)

※関連記事 8 頁



新雪とともに迎えた朝。まだ誰も足を踏み入れていない雪面は、人の心をも清新なものにする。
“無垢”。あらゆる煩悩を離れ、清浄なるが如く往く。誰しもが憧憬の念を禁じ得ない姿であらう。しかし、世人の営みは煩悩にまみれ、喘ぎ、されども力強く生命を輝かせ、営々と歩み続ける。これこそ“煩惱即菩提”といえよう。
今年も未年。ウールで親しまれ、広い用途を持つ羊。意外に日本での飼育の歴史は浅い。古い文献によると、五九九年、推古天皇に対し、百済からの朝貢物のうちに羊二頭とあるのが最古である。
明治期に様々な品種の羊が持ち込まれたが、冷涼な気候に適した羊は、日本の湿潤な環境には馴染まず、定着しなかったという。明治八年、大久保利通により下総に牧羊場が新設され、本格的な飼育が始まったという。しかし、日本の歴史は浅いが、世界的にみるとその生態は紀元前に遡る。愛嬌のある容姿だが、雄には勇壮な角を持つものもある。その性格は非常にデリケートな一方、時として勇猛である面を持つ。
新しい年は繊細で清新な心をもって、時を得ては力強く進んで行きたいものである。あの新雪に初めに踏み入れるべきは、羊の足か。

エッセイ

85

「ライアー」の音色に
魅せられて

根本 裕美



ねもと ゆみ

シュタイナー教育を学ぶ中でライアーに出会い、「つくばライアーの響き」「ひたちライアーの奏」のメンバーとともに、ライアーを奏でる。「ライアー響会」会員。



ライアーの音色が人を惹きつける



秋のコンサート「つくばライアーの響き」

スを得ることもでき、その後「ひたちライアーの奏」が発足して、一緒にライアーを楽しむ仲間にも恵まれました。

日々の練習では童謡やクラシック、ライアーのオリジナル曲などをアンサンブルで演奏しています。お互いの音を聴きあい、心を通わせながら奏でる時、豊かな音の広がりを感ずります。そして、ライアーの持つもう一つの魅力は、即興演奏や音の響きそのものを楽しめることです。初心者でも、膝の上で優しくなでるように弦に触れるだけで、心地よい音を響かせることができるのです。ライアーの音は小さいけれど空間や体全体に響いて、風の音や木々の音、小川のせせらぎに耳を澄ませて聞くような感覚に似ています。テレビ、ラジオ、電子音や機械の音というように人工的な音があふれている時代だからこそ、この小さく



「ひたちライアーの奏」のメンバーと

劇場スタッフの



緞帳

劇場の顔、「どんちゃん」と読む。

観客を演目の世界に引き込み、現実の世界へ返す役割をする幕である。多目的に使用される劇場にはほぼ設置されている。クラシック専門や小劇場などでは設置されていない劇場もある。また、コンサートや演目によっては使用しない場合もある。

緞帳は劇場ごとに模様も様々で、地域のシンボルや、演目でもよく響く音に寄り添って耳を澄ませる、という体験が必要とされるのではないだろうか。耳を澄ませることで、心が穏やかに整えられていくように思うのです。

現在「ひたちライアーの奏」は、十王町にあるアトリエにて月3回の練習に励んでいます。先日は「文化サロン」でも演奏させていただくなど、少しずつ演奏依頼も増え、皆様にライアーの音色を届けられることができる



講演活動もおこないます

を象徴するようなデザインの模様もある。緞帳は贈呈される場合もあり、提供者の名前やマークが描かれていることもある。無地の物も存在する。歌舞伎座などでは複数の緞帳が吊られていて、幕間にそれぞれを切り替えることもある。緞帳には通常の織物のほか、日立市民会館にも設置されている絞り緞帳と呼ばれる別珍（べっちゃん）の幕があり、オペラやバレエなどで使用する場合がある。

ことを始めるとき、幕を開けるといふが、その語源となっているのが緞帳である。客席に入り最初に目にすることになる緞帳。この「ラム」が劇場への興味の幕開けとなれば幸いである。

ようになつてきました。今後、ライアーで繋がっていく縁に感謝し、さらに練習を深めて、よい響きを大切に奏でていきたいと思っています。



解説員の井上さん(上)と
阿部さん(下)

■二〇一一年のリニューアルオープンの際、世界最高峰の投射機器メガスターを導入し

「日本は世界有数のプラネタリウム大国であると御存じだろうか。その数は館として運営されているだけでも約三〇〇カ所という膨大な数である。理由を阿部さんが教えてくれた。「日本では教育施設という概念があるからでしょう。昔は生活と星は密接な関係でしたが科学技術の発展に伴い天文の必要性は低下し、現代では学問の一つになってしまいました。更に子供たちに星を教えるにも夜を待たなくては目にできない。日本の教育現場では難しい部分をプラネタリウムが補完させていたでいてる感じでしょう」。

特別企画

「人々が集う場所を目指して」

日立シビックセンター科学館 天球劇場解説員奮闘記

平成3年のオープン以来、科学・天文について多くのことを市民に伝えてきた日立シビックセンター科学館天球劇場。解説員が一人となって多様な催し物を展開、全国でもスタイリッシュなプラネタリウムと評価は高い。私たち日立市民にとっては当たり前の存在だが市外の方が羨む天球劇場。劇場に求められる物は何が。また目指すものとは。今回は解説員の井上さんと阿部さんのお二人に思いを伺った。

た日立シビックセンター天球劇場。オープン以来使用してきた機器では不可能とされた表現が自在にできるようになり、解説員の皆さんは新たな取り組みにもか

から丸三年が経過しましたが、世界トップクラスという評価は変わっていないと思います」と井上さんは語る。「この業界では開発に莫大な時間と予算がかかります。車のようにマイナーチェンジもありません。新しいシステムができるまで何年もかかります。我々がメガスターを入れた頃は、当時の技術水準では完璧な開発がされた時でした。まだ暫くは新しい機器はできないでしょうね」。

り、実際に天文の解説をしなくてはならなくなりました。基本的な機器の操作は数週間できると。しかしお客様にわかり易く解説するにはどうしても知識が必要になる。一念発起し、井上さんは中学生の教科書から読み直した。阿部さんは配属後の二ヶ月間で五〇冊に及ぶ天文などの書籍を読みあさったという。知識と経験の積み重ねが今日の天球劇場を創っているのだ。

う。日立の皆さんには意外に思われるかもしれませんが、全国のプラネタリウムで生解説をしている劇場は少ないんです。日立ではそのスタイルで永くやってきています。これは強みですね。だからこそ解説は個性があった方が良くと考えます」と井上さん。個性的な解説員がいてそれぞれの表現で天文を語り伝える。それであればこそ、飽きのこない、愛されるプラネタリウムが続けられるのだ。

や星を介して人々が集う場所にしようというもの。どんな些細な事でも良いので天球劇場に来て質問して欲しいというのだ。そういう情報交換の場所になることで、星に興味を持つ人達が全国からこ日立に足を運び、ブログやSNSに天球劇場が凄いと書き込んでくれば日立の賑わい作りになる。そのためにはオリジナリティ溢れた催し物を積極的に展開していく必要がある。「アイデアはまだあります。ご期待ください」と笑顔で頷く井上さんと阿部さんであった。



最新鋭機器のメガスター



コンソールは客席最上部にある



全ての操作はここから

■井上さん、阿部さん共に、特に天文に興味があったわけではなかった。天球劇場に配属にな

■経験者としても開演前は緊張するという。それでもお客様の前で話しをするのが楽しくて仕方がないそうだ。「解説は人柄が出ます。若い頃、がむしゃらだった僕の解説は尖っていたかもしれないね(笑)。宇宙や星は神秘的で穏やかなイメージがあると思います。であればお客様に穏やかな気持ちで上映をご覧いただくのが大切。最近それができるようになってきたと思

日々を詠む

《選・評 佐々木とほる》

子の窓に天降るが如し冬日の箭

松村たくじ

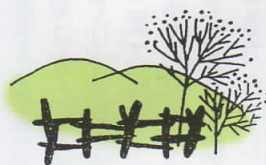
句意は子供部屋の窓に冬の日光が箭(矢)のように燦燦(さんさん)と降り注いでいる情景を詠んだものである。寒い冬の日の太陽の恵みを感じているが、作者のお子さんへの深い愛情が伝わってくる。

作者は日立研究所に長く勤めた「かびれ」の古い同人。昭和三十六年の作品。

選評 佐々木とほる



ふるさと探訪パートⅡ ⑤7



十王台遺跡の古代東海道駅路

田中 裕

茨城大学人文学部教授
長者山遺跡調査指導委員会委員



藻島駅路跡

今から一三〇〇年以上前、ヤマト王権は「国（令制国）」と呼ばれる地方行政区画を、伝達経路（官道）ごとに編成した。畿内以外の各国は、西海道、山陽道、山陰道、南海道、東海道、東山道、北陸道に所属し、実際に道が整備された。これらは国府を結ぶ道で、途中に駅家（うまや）が置かれ、馬を用いた伝達手段を確保したことから、駅路とも呼ばれる。つまり、官道の成立は「日本」の地方支配が確立した瞬間をものごたる。列島の住人は、法制度に基づく国家運営を、このときはじめて経験した。すべてが构子定規であり、実践よりも、形式が優先された。古代道の研究者である木下良氏は、古代官道の特徴を「直線的計画古道路」と表現した。地形をまったく無視した「計画」に基づいた「直線道」は、規格や形式が優先された、古代の特徴がよくあらわれている。

台地と低湿地の境界地点に



十王台遺跡切通し跡

は、道の切通し跡が残っていることがある。日立市伊師の藻島駅路跡はその代表である。藻島駅路跡を南におかつてまっすべー一八〇〇m進むと、その台地上に、十王台遺跡がある。十王台遺跡は、全国でも有名な弥生時代の遺跡であるが、古代東海道駅路の隠れた名所でもある。遺跡を南北につらぬく道がその名残とみられ、台地の南斜面には、まっすべ下っていく切通しがある。現在も道として使われているこの切通しこそ、前述の木下氏が駅路の痕跡として指摘した場所にほかならない。

最近、十王台遺跡の一部が発掘調査されたが、残念ながら古代のものは残っていない。古代道がとあるはずの地点である。現場を訪れた

友の会だより

日立市民文化事業団
友の会

ごあいさつ

友の会会長 武田 京子

あけましておめでとうございます。

文化の火を心に灯し続けたという願いをもつて、友の会は、今年で設立31周年目になります。新年はまず、1月4日（日）新歌舞伎座へ。幸四郎、吉右衛門、玉三郎、勘九郎、染五郎、七之助、錚々たるメンバー勢揃いの「寿初春大歌舞伎」の、バスツアー鑑賞会を予定いたしました。7月には劇団「四季」のミュージカル鑑賞を計画中です。今後の行事は、昨年同様、春の文化遺産を訪ねる一泊旅行や、秋の海外からの本格的オペラの日本公演の鑑賞も、恒

のは雨の日であった。ふと切通しを眺めると、舗装斜面を泥水が流れている。調査の影響であろうか。とはいえ、雨が降ると、一日にどれだけの土が押し流されるのか。そう考えたとき、思わず息を飲んだ。相手は一三〇〇年前の無舗装道路である。地形を無視した切通しには、長い年月を



例となりました。これは、茨城県立県民文化センターで行われ、毎回大変感動いたしております。茨城大学名誉教授の白井英男先生の「オペラをより楽しむ会」という、映像と演奏による、事前レクチャーが、すばらしく、私達は、このオペラを前から知っているかのような思いにさせられます。友の会は、個人では、なかなか出来ない事を、会員と楽しむ企画を考えています。今年もよろしくお願いいたします。

My 仕事 104

香・高級線香

ぶんしう

(弁天町・日立)

「香りを聞く」

弁天町の細い道にある白い看板。日立ではあまり見慣れない「香・高級線香」の文字が目に行く。お店の入口へ続く道は、京都の街にいるような感覚になり、ゆっくりとした時間が流れていきそう。お店は人が一人二人入れればいっぱいになってしまうほど、小ぢんまりとした広さだ。だが、そこは、知る人ぞ知っているお客さんが訪れるお香屋さんだ。そんな文壽さんにお話を伺った。



お店は四月で十一年になります。ここで買われたお線香を贈られた方が氣に入ってきてくださり、今度はお店に来てくださいます。少しずつ口コミで広がってきました。父が京都出身で、家にはずっとこういったお香などがありませんでした。京都では、お香やお茶、お花などが当たり前のように身近にあります。そういった京都に関係があるもの、生活をつなげたいとお店を始めました。



お正月限定。可愛い香り袋の未たち

お正月限定。可愛い香り袋の未たち。ここでは、全て京都のものだけを扱っています。京都には、江戸時代から続く有名な四大お香屋さんがあります。鳩居堂、山田松香木店、松

方に言われました。個人でやっているお線香のお店は、県内ではここだけかもしれない。お店の規模はとても小さいですが、京都の街のお香屋さんみんなこのくらいに広さでした。こ



お気に入りの香りがきくと見つかる



高級線香が並ぶ。良い香りが聞こえてきそう

スーパーなどでお線香は買えるのにいらしてくれるお客様がいることは、とても嬉しいですし、非日常のようなのを求めているのかもしれないですね。



暖かく優しい雰囲気。思わず立ち寄りたくなる

栄堂、薫玉堂。そのうちの2つ、鳩居堂、山田松香木店を取り扱っています。香りの種類は、よく知られているのは白檀。あとは、沈香。高級なものがある。加羅は他と比べてぐっと値段が変わります。原料が手に入らないため貴重なものなんだと思います。加羅を焚くと他の香木と区別ができるので、ぜひ、一度は焚いてほしいですね。

香りは形がないものです。同じ香りを聞いても、人によって、その時によって「甘い、苦い」と感じ方が違います。その人、その時の心を通して聞かれます。なので、香りを「嗅ぐ」ではなく「香りを聞く」と言います。心の持ちようで捉え方が変わってきます。

香道は、もともとは室町時代に男性から始まりまして。お茶、お花と同じです。今でもお店には、男性のお客様が多くいらつしゃいます。夜一人、自分だけで聞くために買われる方もいます。香りは形がないものですが、その分ぜいたくなもので、癒しになるのかもしれないですね。



京都の街を感じるお店への道

そういつたところも大切にしたいと思っております。お店をこま

お盆はもちろんですが、季節を問わず、一年中、お正月も進物用としてお線香を買っていく方が多いです。京都には仏事だけでなく慶事にもお線香を贈ります。結婚するときは、向こうの御先祖様によろしくという意味で贈ります。文化の違いを感じますよね。その生活を伝えていきたい、つなげていけたらと思っています。

お盆はもちろんですが、季節を問わず、一年中、お正月も進物用としてお線香を買っていく方が多いです。京都には仏事だけでなく慶事にもお線香を贈ります。結婚するときは、向こうの御先祖様によろしくという意味で贈ります。文化の違いを感じますよね。その生活を伝えていきたい、つなげていけたらと思っています。

特に大きな夢は無いのですけれど、これからも変わらずに静かにやっていきたいです。ただ、みなさんの普通の生活にお香や京都の生活を取り入れてもらえたらと思います。丁寧に作ったものを丁寧に渡して丁寧に使ってもらいたいと思っています。

能楽は日本人のこころ 最終回

能・翁と高砂のこと



うしろ だ よう こ
後田 洋子

〈プロフィール〉
東京芸術大学邦楽科、修士課程卒業。
観世流準職分を頂き、舞台等活動。
市民のための能を知る会実行委員会会
長、日立市文化少年団能楽部代表、向
洋会主宰。

舞います。三部では翁が舞台
上で白式尉の面をつけ、単純
な舞を舞い、萬歳衆と結びま
す。翁と千歳が退場した後、
四部の三番叟を狂言方が黒色
尉の面をつけ農耕民族である
躍動的な様子の段を舞います。
全体に天下泰平を祝います。
離子方と地謡方は舞台上に残
り、脇能、神様を主人公とす
る能が始まります。中でも高
砂は翁に次いで、神聖です。
住吉、高砂の松の精の老夫婦
が登場します。脇の神主は夫
婦なのに何故、離散なのです
かと訪ねると、お互いに思い
あい、愛し合う夫婦は心が通
じている事をのべます。高砂
は万葉集の時代住吉は古今集
の時代のたとえであると云い
合わせて歌道の根本をなす
事。松は一年
中、深い雪の中
でも千年変わら
ぬ緑の色を鑽
え、松の花は百
年を十度も繰返
して千年に一度
咲くそんなめで
たい時の来る松
を称え、題材に
して歌を詠み、
御代を仰ぎます
と国も栄えると
唱えます。後半



「葵上」国立能楽堂にて舞う



な情景の中に
日本人の血が
脈々と流れて
います。

新年を迎えますと、初日の
出を拝み、家族団らんでお祝
いいたします。能楽も年の始
めを大変大切にいたします。
お正月は五流共に翁から始
まります。能にして能にあら
ずと云われ、儀式そのもので
す。シテは独特な翁狩衣、指
貫の装束で、静かに登場して
参ります。数種の歌舞、四部
に分かれ、一部は翁が地謡と
の連吟で「とうとうたらら」と
たらりあがりららら」と
呪いの様な謡を謡います。二
部は千歳、若者が「鳴るは瀧
の水。日は照るとも絶えずと
うたり」と若さの象徴の舞を

は住吉明神が現われ、国土繁
栄を祝います。全体を剛吟で
お腹の底からわき出る声で、
瀧の様に淀みなく清らかに合
唱します。美しい日本語、自
然との共存、夫婦愛、和歌礼
賛と、翁・脇能は能楽の柱で
す。その静か

新しい年を迎えて

公益財団法人日立市民文化事業団
理事長 森 秀男

2015 南こうせつコンサートツアー ～うちのお父さん～

チケット
発売中

2/11 (水・祝)
17:00 Start

日立市民会館ホール

全席指定 (税込)

S席5,500円 (友の会 5,000円)

A席4,500円 (友の会 4,000円)

主催・お問合せ (公財) 日立市民文化事業団 ☎0294-22-6481



週末よしもと お笑いまつりin日立



出演
予定

☆渡辺直美 ☆友近 ☆ロザン
☆パンクブーブー ☆ジャングルポケット
☆インパルス ほか

都合により出演者が変更になる場合があります。

日時 3月15日 (日) 16:30開演 (16:00開場)

会場 日立市民会館ホール

入場料 全席指定3,300円 (友の会3,100円)
当日3,800円

●チケットは…

1月28日 (水) 9:30～文化事業団友の会及び20枚以上の団体※電話のみの受付
1月31日 (土) 9:00～一般窓口発売 日立市民会館ほかプレイガイドにて

新しい年を迎え、皆様方に
心よりお慶び申し上げます。
昨年は政治・経済・スポー
ツ・学術等々、様々な話題が
あり、私達市民生活に大きな
影響を及ぼす出来事もありま
した。今年戦後七十年を迎
え、日立市は大きく変化して
おります。そして、私共の財
団においても歴史の変革があ
りました。既にご存じのこと
と思いますが、日立市民文化
事業団と日立市科学文化情報
財団がこの度対等合併を致し
ます。振り返りますと当事業
団は市民の草の根運動による
財団としては日本で初めて、
皆様からの貴重な寄付による
基本財産をもとに、昭和五十
一年十一月三日に誕生致しま
した。以来、「先人が築いた
文化遺産や伝統を尊重し、市

民自らが展開する文化活動を
支援することによって、心豊
かな新しい文化のまちづくり
をめざす」という基本理念を
基に、様々な事業の展開や文
化活動の支援をおこなってま
いりました。
新たな時代を迎えた今、二
つの財団が培ってきた経験や
実績を一つにし、更に大きな
力となって文化都市日立を発
展させるべく、公益財団法人
として本年四月一日に「日立
市民科学文化財団」と名称も
新たにスタート致します。こ
の財団は市民が主役で「心豊
かなまちづくり」を創造し実
現する財団です。市民の皆様
と共に更に希望に満ちたベ
ジを開くことができますよう
心より祈り、又私共も旧に倍
して努めてまいります。

チケット
発売中!!

第27回 ひたち童謡のつどい

1月18日(日)

開場13:30/開演14:00

会場:日立市民会館

【第一部】出演

■大久保幼稚園 ■日立市立大沼幼稚園
■日立市少年少女合唱団 ■ひたち童謡を歌う会

入場料

- 一般: 1,000円 (友の会900円)
 子ども: 500円 (友の会450円) ※1
 ペア: 1,300円 ※2・※3
 ※1 子ども券は3歳以上中学生以下
 ※2 ペア券は大人と3歳以上中学生以下の
 2枚購入の場合
 ※3 ペア券は前売り券での取扱いのみ
 【チケット取扱店】
 ■日立市民会館 ■多賀市民会館
 ■日立シビックセンター



第156回文化サロン

有人潜水調査船

「しんかい6500」から見た世界

2月14日(土)

午後1時30分開演
日立市民会館111号室

☆☆入場無料☆☆

お申し込みは…

1月17日(土)9時30分から
日立市民会館 ☎0294-22-6481
電話のみの受付になります。(先着100名)「しんかい6500」とパイロットについて、
また、覗き窓から見た深海の不思議な景
色をご紹介します。

講師 外崎 隆さん

【独立行政法人海洋研究開発機構広報部広報課・「しんかい6500」副操縦士】

山形県酒田市出身。高校卒業まで東海村で過ごす。北海道大学水産学部卒業後、
独立行政法人海洋研究開発機構に入所。日本海洋事業(株)に出向、「しんかい
6500」運航チームに配属。「しんかい 6500」副操縦士として、研究者と共に深
海に潜り、海底調査潜航に参加。現在は、広報部広報課として活躍中。

平成26年度日立市少年少女合唱団定期演奏会



3/22(日)13:30開演

日立市民会館ホール

入場無料(どなたでもご覧いただけます)

主催
お問合せ日立市少年少女合唱団
☎0294-22-6481

わが街の作曲家

額賀松吉先生

～よみがえるメロディ・汐鳴りのうた～

日時 1月24日(土)

13時30分開演

場所 多賀市民会館大ホール

入場料 入場無料



出演

大津香津子(メソソプラノ歌
手)/戸来和子(ピアノ)/野
口喜広(オカリナ奏者)/若
柳ゆかめ・若柳ゆかめ社中
(日本舞踊)/日立民謡民舞
連合会有志(民謡)/助川中
学校卒業生・関係者有志/
日立市民吹奏楽団 ほか音楽を通して日立市に貢献された
額賀松吉先生。多くの校歌・園歌を遺され、今尚多くの市民に
歌い継がれています。額賀先生の楽曲を歌や
踊り、演奏を通して先生の足跡を辿る。
そんなコンサートです。

お問合せ 額賀松吉先生顕彰事業実行委員会事務局 ☎0294-22-6481

予告

ひたち街角小劇場第21弾

演劇集団☆ハジメ/第七節演劇公演

死神の暇つぶし

1月18日(日)

入場料 前売 500円
当日 700円

①13:30～ ②16:00～

※開場は各回30分前

会場:多賀市民会館(1階小ホール)

予告

ひたち街角小劇場第22弾

籠宮ジュン率いる

チーム無頓着

オズマ ルケス

3月21日(土)

3月22日(日)

①16:00～ ②19:30～

①11:00～ ②14:00～

※開場は各回30分前 ※詳細未定

会場:多賀市民会館(1階小ホール)

お問合せ 多賀市民会館 ☎0294-34-1727

第6回ひたちこども芸術祭

～こどもが創る芸術の祭典～

3月14日(土)・15日(日)

会場:日立シビックセンター

音楽ホール/会議室/ギャラリー

★ステージ発表(各日10:00開演) 会場:音楽ホール
土曜日/太鼓・踊り・ダンス・お琴・民謡・フラダンス など
日曜日/能・太鼓・合唱 など

★体験・展示コーナー(各日10:00～15:00)

会場:ギャラリー、4F・5F会議室
華道・将棋・川柳・書道・美術 など
(土曜日のみ/かるた・囲碁・パッチワークキルト・ボードゲーム)
(日曜日のみ/茶道)

★かけ絵(各日13:00～)

会場:1F会議室

★入場無料★

※コーナーにより参加費が
かかる場合がございます。お問合せ:ひたちこども芸術祭推進委員会
☎0294-22-6481

楽しさ満載!

日立市民文化事業団 事業の御紹介
お問合わせ ☎0294(22)6481

INFORMATION

1月

3月

日立市民会館
0294-22-6481

多賀市民会館
0294-34-1727

■劇団飛行船

マスクプレイミュージカル「ももたろう」

主催：(公財)日立市民文化事業団
1/16(金)10時30分開演 全席指定
S席 2,500円(友の会 2,300円)
A席 2,000円(友の会 1,800円)
B席 1,500円(友の会 1,400円)

■第27回ひたち童謡のつどい

主催：ひたち童謡のつどい実行委員会
1/18(日)14時開演 全席指定
一般 1,000円(友の会 900円)
子ども 500円(友の会 450円)
ペア券 1,300円(前売りのみ)

■サッカー日本代表チーフドクター

池田浩講演会

主催：日立市・日立市教育委員会
1/25(日)15時開演 入場無料

■第56回学校ダンス発表会

主催：茨城県女子体育連盟
2/1(日)12時30分開演 入場無料

■ミュージカル「ブッダ」

主催：(株)わらび座/日立わらび座をみる会
2/7(土)14時開演 S席 4,500円
A席 4,000円 自由席 3,500円

■南こうせつコンサートツアー 2015

～うちのお父さん～

主催：(公財)日立市民文化事業団
2/11(水・祝)17時開演 全席指定
S席 5,500円(友の会 5,000円)
A席 4,500円(友の会 4,000円)

■親子まんが映画会

主催：(株)エムアイ企画
2/14(土)10時開演 900円

■妊娠出産理解啓発「いのちの教育」講演会

主催：日立市
2/18(水)14時開演 無料

■青少年健全育成のための市民の集い

主催：日立市青少年育成推進会議
2/28(土)13時開演 入場無料

■防災講演会

主催：日立市防災協会
3/2(月)18時開演
入場無料(整理券)

■ダンスパーティ

主催：MBM
1/10(土)18時開演
入場料 1,000円

■ひたち郷土かるた大会

主催：日立市青少年育成推進会議
1/18(日)9時30分開演 入場無料

■わが街の作曲家額賀松吉先生

～よみがえるメロディ・汐鳴りのうた～
主催：額賀松吉先生顕彰事業実行委員会
1/24(土)13時30分開演 入場無料

■日立書道連盟展 日立市小中学校書初め展

主催：日立市文化協会
1/31(土)～2/2(月)9時オープン
入場無料

■ソロコンテストいばらき

主催：茨城県吹奏楽指導者協会
2/7(土)・2/8(日)9時開演
入場無料

■映画「アオギリにたくして」上映会

主催：日立上映実行委員会
2/11(水・祝)10時/14時開演
入場料 1,000円

■ピティナピアノステップ

主催：全日本ピアノ指導者協会
2/14(土)9時30分開演 入場無料

■ピアノ発表会

主催：高畠、石川
2/15(日)13時30分開演 入場無料

■週末よしもと お笑いまつりin日立

主催：(公財)日立市民文化事業団
3/15(日)16時30分開演
全席指定 3,300円(友の会 3,100円)

■あいあいコンサート

主催：日立市少年少女合唱団
3/22(日)13時30分開演 入場無料

■定期演奏会

主催：多賀中学校吹奏楽部
3/28(土)時間未定 入場料未定

表紙写真



記録的な大雪となった昨年。ホームセンターからスコップと長靴が消えたというニュースは記憶に新しいが今年はどうだろうか。写真は数年前の冬の朝の一コマ。普段は多くの家族連れで賑わうかみね動物園も、この日はかりは開店休業であったはずだ。高萩市にお住まいの田村久さんにお借りした日立の冬景色の中の一枚。ありがとうございました。

■ダンスパーティ

主催：コンタクトフリー
2/22(日)13時開演 入場料 1,999円

■コンサート

主催：ファミレド市
2/28(土)・3/1(日)12時15分開演
入場無料

■パナソニックフェア

主催：茨城東PS会
3/7(土)・8(日)10時オープン
入場無料

■ヤマハ音楽発表会

主催：(株)映光社
3/15(日)10時/14時開演 入場無料

■コンサート

主催：ファミレド市
3/19(木)～21(土)時間未定
入場料未定

■第3回春季フェスティバル

主催：県北地区高等学部演劇部
3/28(土)・29(日)時間未定
入場料未定

■定期演奏会

主催：泉丘中学校吹奏楽部
3/30(月)時間未定 入場料未定

編集後記

■二〇一四年の流行語トップテンに「壁ドン」という言葉が入った。この意味は皆さんご存じのとおり▲調べてみるとこの壁ドンの使い方は誤りだという。十数年前からネット上で使われていた「集合住宅等で隣室の騒音に對し壁をドンと殴る行為」という意味であるとのこと。それが本来の意味なら、流行語の使い方が誤りということになる。問違った用法が浸透している語句は数多ある。「役不足」「確信犯」などがその代表だ。古くは平安朝文学における「有り難き」と「滅多にない・容易でない」という意味であるが、現代では「一人の好意などに感謝するさま」に転じている▲言葉の意味は永久不変ではなく、移ろい流れゆくもの。それもまた一つの文化の形なのだと思う。現在誤りと指摘されている語句の意味も、時が経つにつれ正道となる句の正しい意味を追求する前に、私の今後の人生で女子をキョコンとさせる壁ドンを実現できる日が来るのかどうか、甚だ疑問に思ふ今日この頃だ(A)。※後田洋子先生の「能楽は日本人のこころ」は今年で終了いたします。後田先生、ありがとうございました。

発行 公益財団法人

日立市民文化事業団

「ひたちの文化」編集委員会

日立市若葉町一丁目五番八号

日立市民会館内

TEL 0294-22-6481

FAX 0294-22-6481

ホームページ

http://www.hitachicity.jp/culture

※御意見・御感想をお寄せ下さい。